令和３年度　現職研修助成事業研修報告　研究の概要

長門市立明倫小学校

１　研究主題　　みすみ絆プロジェクト～本物から学ぶ・先輩から学ぶ～

２　主題設定の意図

本校が位置する長門市三隅地区には，数多くの貴重な教育的財産がある。中でも，江戸時代，長州藩の藩政改革を主導したとされる村田清風先生をはじめ，山口県第一号の女性医師となった中原篷先生，昭和を代表する洋画家の一人である香月泰男画伯は著名であり，本校でも，「三隅三賢人」として，その生き方を学ぶ機会を設けてきた。また，地域全体が学校教育に対して協力的で，米作りやクラブ活動の指導，読み聞かせや福祉施設との継続的な交流等，様々な取組により児童の豊かな体験活動を支えてくださっている。

しかし，ここ近年やや活動がマンネリ化し，見直しの必要性を感じていた。それに加えて，昨年度からのコロナ禍により，直接的な交流が難しい現状もあった。そこで，地域連携の在り方を見つめ直し，本当に必要な活動を選ぶことで，地域連携教育の充実を図りたいと考えた。

本校出身者の中には，自分の夢を実現するために起業し，第一線で活躍している先輩が数多くいる。また，芸術やスポーツの分野で活躍している先輩もいる。もちろん古くから伝わる文化や技を継承している先輩方もいる。そういった方々と出会い，絆を紡ぐことで，児童は専門的な指導を受けるとともに，自己の生き方を考えることができるであろう。そして，そのような先輩方がいるふるさとに誇りをもち，ふるさとを愛する心情を育てることができるであろう。

本校は，本年度の研修テーマを，「自らの成長を語ることのできる子どもの育成～主に生活科・総合的な学習と国語科とのつながりを通して～」と設定し，校内研修を進めている。生活科や総合的な学習においては，地域との連携や協働が不可欠であることを踏まえ，本主題を設定し，さらに研究を進めることとした。

３　内　容

（１）地域づくりのプロから生き方を学ぶ

本校出身者で地域在住の起業家を招き，地域づくりについて学んだ。

５月１２日，今の学校が抱えている課題を共有し，これから「幸せ」をテーマに，学校を・まちを，クリエイティブにデザインしていくための作戦ミーティングを行った。

５月２１日，校内研修会の自主研修会「もちとくカフェ」において，「生き方」にフォーカスした講義を受けた。「教育は，最大のインフレ！」「人が人を育てて価値をつくる，仕組みをつくる。」「心地よく人が住めるまちを，地域の人とつくる。」「こんな会社で働きたいなあ，やればできるんだと思える会社をつくる。」「やりたいことができる環境づくりをする。」といった熱い思いを受け取った。それを聞いた教職員は，自分たちの生き方を見つめ，自分の思考や価値観と行動が今の自分と未来をつくること，我々大人の輝

きが，子ども達の輝きやまちの未来につながることを実感した。

６月２１日の学校運営協議会において，学校・地域連携教育カリキュラムの見直しを行った際，専門的な立場からの助言や，異業種ならではの発想，会社として協力できる内容の提案をしていただいた。学校が描いたデザインを基に，それぞれの立場でできることを考え，思いっきり語り合ったら，思いがけないアイディアが生まれた。その後，いただいたアイディアに「楽しさ」という視点を加え，教職員でデザインを練り直すことができた。

８月６日，三隅みすゞ学園研修会において，「地域をデザインする」という演題で講演をしていただいた。「まちづくりは人づくり」「モチベーションは，行動して自信をもつことから。時機を待ってもモチベーションは上がらない。」「変わるか変わらないかは，やるかやらないかにかかっている。」など，心に響く言葉の数々から，たくさんの希望や可能性を感じた。様々な葛藤を経て起業するに至った経緯からは，ふるさとへの深い愛情と地域づくりに対する強い思いを知った。

（２）夢を叶えた先輩から生き方を学ぶ

本校出身の起業家で，自らもＣＲＥＡＴＩＶＥ　ＤＩＲＥＣＴＯＲとして活躍されている先輩がいる。

６月１０日，教職員との交流会。「困り事から人のニーズが始まる。」「自分のよさを出せる技術が大切。」「できない理由を探さない。」など，前向き発言の連続に心が躍った。また，広告作りにおいて重要となる，文字数の魔法や色の魔法，エレベーターの魔法などの興味深い話の数々に，引き込まれていった。そこで，５年生を対象に，プログラミング教育とキャリア教育の指導を仰ぐことにした。

７月６日，「ようこそ先輩」の授業に，仲間のデザイナー，プログラマーと共に来校された。「やりたいことを突き詰めると仕事になる。」「地域の困り事を知って，地域を笑顔にするために仕事をしている。」「漫画家になりたいという夢は叶わなかったけど，視野を広げるともっと自分が輝ける仕事につけるよ。」「いろんな人と会ってごらん。」「関わった人たちが，幸せであったらいいな。」など，職業の選択や生き方に関わる話をたくさんしていただいた。また，プログラマーが実際に制作したゲームを体験したり，自分たちが作った動画の編集の仕方を習ったりした児童は，プロの技のすばらしさに感動するとともに，新たな目標を抱くことができた。教わったことをその後の動画制作に生かし，学習を深めることができた。

（３）本物から学ぶ

６年の総合的な学習で，自分たちの写真展を開くといった活動をしている。児童の願いを受けて，地域で写真館を営む先輩を招き，写真の撮り方についての指導を仰いだ。たくさん撮ることで心動かされるよい物に出会えること，光の加減や撮る際の目線を意識すること，感謝を伝える写真は相手と自分にフォーカスするとよいことなど，プロならではのコツをわかりやすく教えていただき，その後の撮影に生かすことができた。

北浦を中心に活動されている女声合唱団を招き，音楽演奏会を実施した。三隅三賢人の一人である香月泰男先生の生誕１１０周年記念コンサート。衣装のＴシャツの絵柄は，我が明倫小学校の壁画「愛情」である。香月先生の生き方を，歌で見事に表現されていた。素敵な生の歌声に，会場は笑顔で包まれた。本物の力で，地域のことを深く知る機会にもなった。

地域の老人クラブの皆さんは，いつも学校の強力な応援団である。米作りに関する指導に加え，注連縄飾作りや凧作りの指導など，様々な場面で力を貸してくださっている。５年生対象の注連縄飾作りでは，事前練習を繰り返し行うことで，当日とても上手に制作することができた。また，１年生対象の凧作りでは，事前の打ち合わせや準備を綿密に行い，熱心に指導していただいたおかげで，昔ながらの凧作りや凧揚げのおもしろさを味わうことができた。

（４）地域の力を借りる

２年の生活科「まちたんけん」の学習では，地域の特定の方に会いに行き交流を図った。すると，児童は，「あの〇〇さんにまた会いたい。」という思いを抱くとともに，身近な地域への関心を高めることができた。

３年の総合的な学習では，「祭り」をテーマに探究活動を行う中で，地域の神社の宮司さんとの交流を繰り返し行うことで，学びを深めるとともに，ふるさとに対する愛着をもつことができた。

本校では，毎年４年生が，地域の特別養護老人ホームとの交流活動をしてきている。しかし，昨年度はコロナ禍により，中止せざるを得なかった。今年度も直接的な交流はできないため，オンラインによる交流を行った。事前の打ち合わせや準備に時間はとったが，それ以上にふれあいの効果は大きく，よい学びとなった。

遠足では，全校が「みすみ　いいね　探検隊」となり，三隅を巡るウォークラリーを行った。三隅三賢人の足跡をたどりながら，縦割り班の友達と協力しながら歩いて考えてふれあうことを繰り返した。地域の人のやさしさに支えられて，ふるさとの良さを実感する１日となった。

４　成果と課題

（１）成果

・これまで眠っていた地域の財産を学びに生かすことで，児童の豊かな体験活動を可能にすることができた。
・児童のよりよい成長のために本当に必要であるかという視点でこれまでの活動を振り返り，地域連携教育を一歩進めることができた。
・教職員の地域連携や自己の生き方に係る意識が変容し，地域連携教育やキャリア教育の指導に生かすことができた。
・児童が学びの楽しさを味わうとともに，ふるさとに誇りをもち，ふるさとを愛する心情を高めることができた。
・学校の取組を情報発信することで，家庭や地域の関心を高めることができた。

（２）課題

・新しい取組を始めるには，打ち合わせや準備のための時間が予想以上にかかってしまったため，交流を継続して行うことが難しかった。本年度の反省を踏まえ，次年度のカリキュラムに位置付けることで，計画的に実施していきたい。
・芸術やスポーツの分野で活躍している先輩と出会わせたいと考えていたが，コロナ禍という現状では実現できなかった。また，オンラインによる交流も考えたが，時間的な制約もあり難しかった。次年度は，その取組においても専門家の力を借りることで，ぜひ実現させていきたい。
・地域への情報発信がまだまだ足りないと感じている。学校の様子を知らせるだけでなく，学校に地域の居場所をつくることで，さらに絆を紡ぎながら，明倫小を拠点に元気と志を届けていきたいと考える。